

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病害虫発生予察情報について

令和3年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

令和3年度農作物病害虫発生予報第8号

令和3年8月31日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が30.4%、発病穂率が0.4%と、平年(21.5%, 0.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(65.4%)に比べてやや低く、発病度は1.8と、平年(6.2)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が4.2%、株当たり寄生虫数が0.003頭と、平年(20.7%, 0.181頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場における発生状況を早期に確認し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う。
- (2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に薬剤防除を行う。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の水田における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、24地点のうち10地点で生息を確認した。捕獲地点率が41.7%と、平年(40.9%)並の発生であるが、地点当たりの捕獲虫数は2.5頭と、平年(1.3頭)に比べてやや多い。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。しかし、出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

II. 果樹

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.7%、発病果率が0.0%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.0%、新梢発病率が0.0%)。
- (3) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

フジコナカイガラムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生果率が2.8%と、平年(52.7%、2.7%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 密度の高い園では、2回以上の防除が必要である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月の予察灯調査において, 勝浦町での誘殺数は, 各種カメムシともに平年に比べて少なく推移している。一方上板町では, ツヤアオカメムシは平年に比べてやや多く推移し, チャバネアオカメムシは, 平年に比べて多く推移している(表1)。
- (2) 8月第6半旬のカキにおける巡回調査では, 被害果を認めていない(平年同時期では, 発生圃場率が10.3%, 被害果率が0.2%)。

表1 [勝浦町および上板町における各カメムシの誘殺数]

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年			2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年
8	1	95	6	141	12	1	8	8	1	17	12	75	13	27	22
	2	79	8	150	68	14	12		2	17	33	107	83	36	19
	3	94	16	210	47	10	22		3	26	53	111	82	26	35
	4	73	22	166	43	12	18		4	142	66	146	196	9	31
	5	3	24	115	24	20	20		5	33	45	173	364	25	42
	6		21	83		4	23		6		60	187		48	50
9	1		1	54		9	16	9	1		16	87		44	42
	2		5	87		19	15		2		24	166		52	34

- (3) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みで, 期間の前半は雲が広がりやすく, 平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が77.8%と, 平年(52.5%)に比べて高く, 発病葉率は9.0%と, 平年(7.4%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は雲が広がりやすく, 平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が77.8%, 1株当たり寄生株率が0.2頭と, 平年(17.7%, 0.0頭)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は雲が広がりやすく, 平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年より多い), 発生程度は「中～多」

2)予報の根拠

(1)8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が55.6%と, 平年(56.3%)並の発生であるが, 寄生葉率は3.0%と, 平年(1.9%)に比べてやや高い。

(2)高松地方气象台が8月26日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は雲が広がりやすく, 平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が66.7%と, 平年(37.8%)に比べて高いが, 寄生葉率は1.8%と, 平年(2.6%)並の発生である。

(3)高松地方气象台が8月26日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は雲が広がりやすく, 平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので, 防除の際には, 葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が66.7%と, 平年(49.5%)に比べてやや高いが, 50株当たり虫数は1.2頭と, 平年(3.0頭)並の発生である。

(2)高松地方气象台が8月26日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は雲が広がりやすく, 平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)次世代の発生を抑制するためにも, 被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに, 確実に処分する。

(2)幼虫の齢期が進んだり, 食害して葉の内部に潜むようになると, 薬剤による防除効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫期に防除を行う。

(3)ネギの集団栽培地帯においては, フェロモン剤による防除が効果的であるので, 適切に使用する。

(4)フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので, 早めに交換する。

ネギアザミウマ

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)8月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が22.2%, 被害度が0.3と, 平年(42.5%, 1.6)並の発生である。

(2)高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、被害度が0.2と、平年(83.0%, 12.5)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査9圃場の平均)は、8月第1～第3半旬にかけ、平年並に推移していたが、8月第4半旬以降は、平年より少なく推移している(図1)。

(2)高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

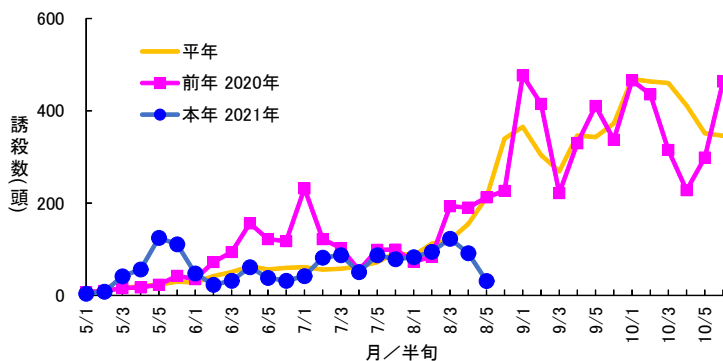


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2)予報の根拠

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(野菜圃場7地点)は、8月第2, 3半旬にかけ、平年より多く推移し、8月第4半旬以降は、平年に比べて多く推移している(図2)。

(2)高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

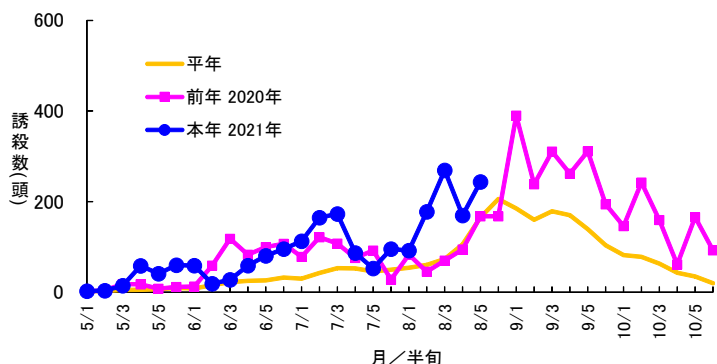


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
*徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(野菜圃場6地点)は、8月第2半旬では、平年に比べてやや多かったが、8月第3半旬以降は、少なく推移している(図3)。

(2) 8月第6半旬の夏秋ナスにおける巡回調査では、発生圃場率が22.2%, 100葉当たりの産下卵率が0.2%であった(平年同時期では、発生圃場率が24.8%, 100葉当たり産下卵率0.4%)

(3) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

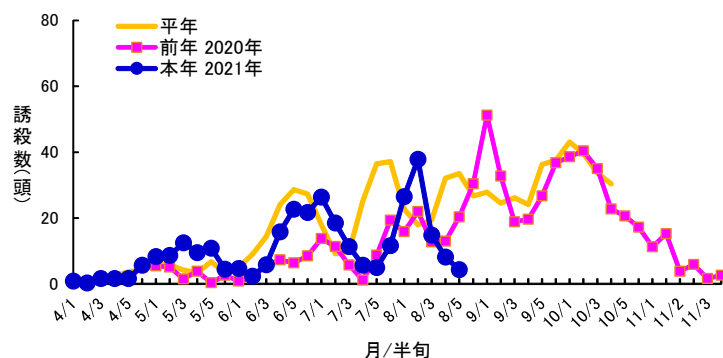


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

冬春イチゴ(育苗期)

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%, 発病株率が3.4%と、平年(7.1%, 0.2%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みで、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷みを防ぎ、通過後は必ず薬剤で予防しておく。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%と、平年(37.5%)に比べてやや高く、寄生株率は11.0%と、平年(5.4%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月26日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みで、期間の前半は雲が広がりやすく、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。